

# 「東日本大震災復旧・復興工事 合同安全衛生パトロール」を実施！

建設技術振興課

東日本大震災津波からの復旧・復興工事が本格化する中、工事現場における労働災害が増加していることを受け、岩手県県土整備部では12月を「事故防止強化月間」と位置付け、事故防止に重点的に取り組みました。

取組のひとつとして、12月21日（月）に岩手労働局長・建設労働災害防止協会岩手県支部長と県土整備部長が合同で、陸前高田市内の災害公営住宅建築工事と大船渡市内の港湾海岸災害復旧工事の安全衛生パトロールを実施しました。



死亡労働災害は墜落転落によるケースが上位を占めることや「足場からの墜落・転落災害防止総合対策推進要綱」が5月20日に改正されたことを受け、今回のパトロールでは、床材と建地との間隔が12cm以下となっているか、足場の周囲に転落防止ネットが張られているか、安全ベルトを固定するロープが設置されているか、などの点を重点的に確認しました。

【平成26年 死亡労働災害発生状況（岩手労働局管内）】

|        |  |           |
|--------|--|-----------|
| 業種別    | <b>建設業10人</b> 運輸業4人 商業4人 製造業2人 鉱業1人 左記以外5人   | 合計<br>26人 |
| 監督署管内別 | 盛岡8人 宮古6人 花巻5人 釜石3人 大船渡3人 一関1人 二戸0人  |           |
| 事故の原因別 | <b>墜落転落8人</b> 交通事故5人 激突され3人 はさまれ巻き込まれ3人 崩壊倒壊2人 飛来落下1人 激突1人 感電1人 転倒0人 切れこすれ0人 おぼれ0人 破裂0人 高温の物との接触0人 その他2人 |           |

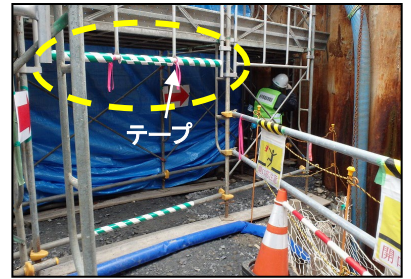
両現場とも、細かい点にまで配慮し事故防止に取り組んでおり、墜落転落防止の措置が取られていました。パトロール実施後、三者から講評が行われ、蓮見県土整備部長からは「現場は安全対策が取られていた。当部発注の工事の事故発生件数が例年より多く推移している。一日も早い復興を目指していただいているところであるが、工期と同様に安全も重要であるとの認識を持ち、一般交通や他工事にも配慮して現場を進めていただきたい」との話がありました。

# ☆「見える化」の取組が進んでいます! ☆

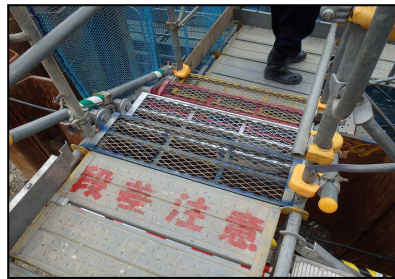
【見える化とは?】人間が視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の5感から得る外部情報の8割が視覚によるものと言われています。労働災害の防止には、危険・有害な状態の認識や予測が必要不可欠ですが、これには一定の経験が必要です。経験年数にかかわらず、働いているすべての人に危険性を伝えるための取組が「見える化」です。



(左) メッシュシートで覆われ外部足場の昇降階段位置が分からないので、シートの色を変えています。  
(中・右) 転落防止のため、注意書きを明示して開口部の養生をしています。

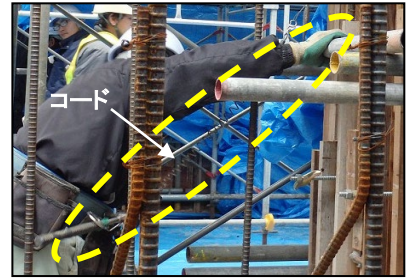
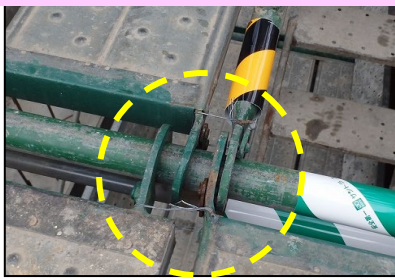


(左・中) 可動式の注意看板を設置し、関係者以外の立入禁止と立入者への注意喚起を同時に行っています。  
(右) 頭上危険箇所の保護をするとともに、注意喚起のためにテープを下げています。



(左) 作業場所に玉掛作業に関する標識を設置し、注意喚起しています。足場端部にも幅木が設置されています。  
(中) 段差注意の明示をするとともに、階段部では階段を色分けして着色し、さらに注意喚起しています。  
(右) 昇降口が分かりやすいよう、明示しています。

## 《ちょっとひと工夫!》ちょっとした配慮が安全につながります



(左) 足場板は、すれやすく、隙間ができるので、鉄線で連結しています。  
(中) 激突防止のため、コーナー部の手すり突起部にキャップをしています。  
(右) 型枠脱型用の金物器具にコードを取り付け、腰に連結しています。セパレーターから不意にはずれても落下しないようにしています。